

高校教育改革に関する検証報告書 「普通教育と専門教育の体制整備について」〔概要版〕

1. 高校教育改革の取組に関する検証の実施について

(1) 検証の目的

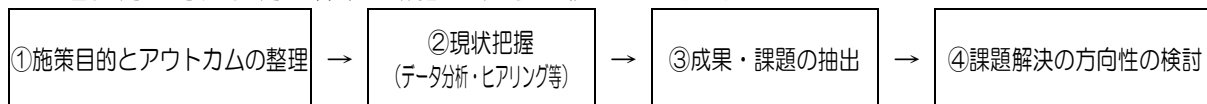
宮城県の高校教育改革に関する施策について、その合理性や有効性を含めて成果や課題を明らかにするとともに、今後の改善に向けた対応の方向性について提言することにより、高校教育改革の着実な推進及びその改善に結びつける。

(2) 検証の対象

教育委員会からの諮問を受け、検証の対象とすべき施策について審議し、「普通教育と専門教育の体制整備」「男女共学化」「全県一学区化」の3つを検証することとした。

検証の順序は、はじめに「普通教育と専門教育の体制整備」について検証を進め、「男女共学化」及び「全県一学区化」については、論点を整理しながら中長期的に経過を見ていくこととした。

(3) 「普通教育と専門教育の体制整備」に関する検証の実施方法



2. 普通教育と専門教育の体制整備に関する検証

学科別の成果と課題，課題解決に向けた方向性（別紙）

3. 高校教育改革の着実な推進に向けた提言

学校の特色づくりなどの取組を通して生徒の多様な選択肢が拡大されるなどの成果が見られる一方、学力の定着や勤労観・職業観の醸成という点においては、さらなる改善が必要な状況にあり、今後は、以下の点を踏まえて高校教育改革の取組を進めることが必要である。

(1) 基礎・基本となる学力の定着に向けた取組

各学校においては、生徒の学力や進路希望に即して教育課程を柔軟に編成することに一層注力することが必要である。特に、学習意欲が著しく低い生徒や義務教育段階の学習内容が定着していない生徒に対して、高校生活への適応を促す指導とともに、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための学習活動（以下「学び直し」という。）や、学ぶことの楽しさや達成感を体得させやすい実践的・体験的な学習の機会の確保していくことが必要である。

教育委員会においては、生徒の意欲・態度も含めた基礎的・基本的な学力の定着を保證することを目的として、現在行われている学び直しや社会・職業への準備教育を一層包括的に行うことができるよう、教育環境の整備に向けて検討を進めることが必要である。

(2) 職業教育の充実に向けた取組

各学校においては、地域の産業界に向けて、職業教育の内容や成果について積極的に情報発信し、認識を深めてもらうことが必要である。また、地域の産業界との連携を一層推進し、職業への円滑な接続につながる職業教育を実践していくことが必要である。

教育委員会においては、今後求められる産業人材を高校の職業教育においてどのように育成していくかを見定め、新たに設置すべき学科も含め、職業教育の体制整備に向けた検討が必要であ

る。また、普通科についても、生徒の進路希望や学習ニーズに応じて、職業に関する教科・科目の履修機会を確保できるようにすることが必要である。

(3) 「志教育」の実践に向けた取組

教育委員会においては、「志教育」の体系的かつ具体的な実践方法を提示するとともに、すべての県立高校において取り組んでいけるよう必要な支援を行うことが必要である。

また、各学校においては、それぞれの学科の特性や生徒の能力・進路希望を踏まえながら、キャリア教育を含めた「志教育」の取組を体系化し、全学年を通じて実施していくことが必要である。

(4) 学科等の在り方

普通科	義務教育段階を含めた基礎的・基本的な学習内容が定着していない生徒については、学び直しの機会の確保に向けて、教育環境を整備していくことが必要。 また、社会や職業に対する意識・態度の育成に向けた教育活動の重要性が一層増していることから、普通科においても、生徒の進路希望に応じて、職業教育に積極的に取り組むことが必要。
専門学科 (職業系学科)	社会や職業への円滑な移行といった視点から、今後の社会や産業構造の変化を展望しつつ、必要とされる専門的な知識・技術・技能を見定めるとともに、より多様な職業に対応できる人材を育成していくといった視点から、学科の設置・再編も含めた専門学科の在り方についての検討が必要。
総合学科	総合学科の制度の趣旨を実現するためには、一定以上の学級規模・教員数を確保して普通教育及び専門教育に関して多様な教科・科目を開設するとともに、1年次における進路指導及び履修指導を十分に行うことが重要であり、この点を踏まえて総合学科の充実に向けた環境整備を図っていくことが必要。
昼夜間定時制課程	昼夜間定時制高校のニーズも高いことを踏まえ、未設置となっている南部地区への設置など、地域バランスを踏まえた配置に向けて検討していくことが必要。

(5) 継続的かつ実効的な検証システムの構築に向けた取組

高校教育改革に関する継続的かつ実効的な検証システムを構築するためには、取組の実態を正確に把握する必要があることから、教育委員会においては、その達成度を測定できる具体的な目標指標を設定するとともに、達成状況を把握するために必要な資料やデータを定期的に収集し、時系列で整理しておくことが必要である。

(別紙)

「学科別の成果と課題、課題解決に向けた方向性」

学 科	成 果	課 題	課題解決に向けた方向性
(1) 普 通 科	○地域の特性や生徒のニーズ・学力に応じた教育課程の編成、指導方法の工夫などを通じて特色ある学校づくりを進めてきており、生徒の学校選択の幅が広がっている。	○進路多様型校及び就職型校においては、日々の授業が難しいと感じる生徒や進路希望が定まらない生徒が少なくないなど、学力の定着や進路意識の醸成が十分でない状況も見られる。	○生徒の学力及び学習ニーズを踏まえた上で教育課程を柔軟に編成するとともに、学ぶことの楽しさや達成感を体得させやすい体験的な学習に積極的に取り組むことが必要。 ○義務教育段階を含めた基礎・基本的な学習内容が定着していない生徒に対して学び直しの機会を確保していくことが必要。 ○生徒の進路希望に応じて、社会や職業に対する意識・態度の育成に向けた教育活動に積極的に取り組むことが必要。
(2) 専 門 学 科 (職業系学科)	○学校と産業界とが連携して地域の発展や活性化を担う人材を育成するという目的の下、社会人講師による教科指導、インターンシップ、起業体験などに積極的に取り組んでいる。 ○工業科では、技能検定合格者数や資格取得者数が増加しているほか、職業倫理の育成も図られている。	○職業人として必要な専門的な知識や技術・技能が変化していることや、産業界や職業が多様化していることを背景に、職業教育の内容と就職する業種の関連性が薄い傾向がある。 ○社会や産業界の変化はめまぐるしく、高校の職業教育の内容がその変化に追いついていくことが難しくなっている。	○今後の社会や産業構造の変化を展望しつつ必要とされる専門的な知識・技術や技能を見定めて教育課程を編成するとともに、より多様な職業に対応できる柔軟性を持つ人材を育成するといった視点から、学科の設置・再編に取り組むことが必要。 ○産業界と教育界が連携を図る中でそれぞれの持ち味を活用し合い、地域産業を担う人材を育成していくことが必要。併せて、大学や他の教育機関との連携を一層進めるための仕組みを構築していくことが望まれる。
(3) 総 合 学 科	○新しいタイプの高校として総合学科が各地区に設置され、生徒が主体的に科目を選択・学習することにより、学習意欲の向上や進路意識の醸成につながっている。	○生徒の授業や進路指導に対する満足度の高さが進路希望の達成に必ずしもつながっていない状況が見られる。 ○生徒の興味・関心や進路希望に基づく主体的な学習を通じて進路希望の達成を図るためには、多様な教科・科目を開設するとともに、1年次における進路指導及び履修指導を充実させることが必要。	○普通教育及び専門教育それぞれの教育課程を充実させるために、一定以上の学級規模・教員数を確保するなど教育環境の維持・充実に向けた体制整備を図ることが必要。 ○1年次における進路指導及び履修指導を十分に行うことにより、進路希望の達成につながる学習を促すことが必要。
(4) 昼夜間定時制課程	○多部制や三修制（修業年限を3年とする制度）の導入を図り、生徒の多様な学習ニーズに応えている。 ○教育課程の柔軟な編成や指導上の工夫により、個々の生徒に対してきめ細かな指導が行われている。	○昼夜間定時制高校での学習ニーズが高ことから各地区への設置などが望まれる。	○南部地区は未設置となっていることから、地域バランスを踏まえた設置に向けた検討が必要。 ○教職員研修の実施や外部の専門機関との連携教育など、生徒指導の一層の充実を図ることが重要。 ○進路変更等の理由による転入学や中途退学者の受入体制が強化されることが望まれる。